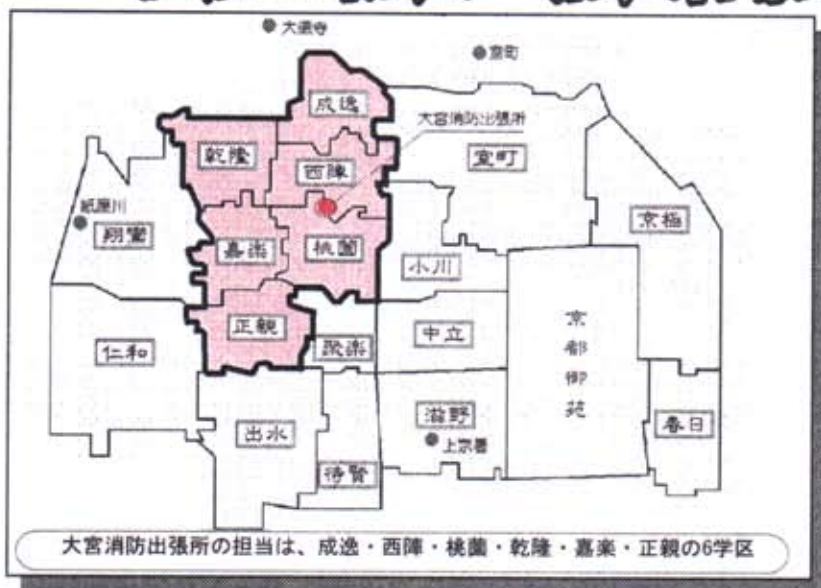


6学区の実情を知る消防出張所

「特別の防火・消火体制が必要な地域です」



大宮消防出張所の担当は、成逸・西陣・桃園・乾隆・嘉楽・正親の6学区

消防局・消防出張所の役割とは何でしょうか？

大宮消防出張所では、6学区の見回り、住民や事業所への防災訓練指導を行ったり、高齢者、障害者の方への防火安全指導、消防団への訓練指導など、「火災を発生させないために」日ごろから実に多彩な活動を行っています。出張所の職員さんは、どこ

に行き止まりの路地があるか、火災発生時の消火活動をすば

日本共産党は市議会で、「廃止計画撤回せよ」と追及！
「住民説明会を開くよう求めていきます」

やく行うためにどう動くのか、高齢の独居世帯はどこなのかなど、地域の実情をつぶさにつかんでいます。戦災を逃れた京都には木造住宅が数多くあって、火が出れば一気に燃え広がります。

まさに一刻、一秒が勝負となります。上京区には、狭い路地や木造家屋が密集したところが多く、特別な防火・消火体制をとってあたりまえの地域です。

くられた共子市議の調査によると、京都市は、「当初2千万円で耐震改修する予定が、現出張所に吹きつけアスベストが使われていることが分かり、工事期間中の仮庁舎が必要となり費用が3倍かかる。さらに、民有地を借りることになれば9千万円かかる」とし、そのことを廃止の理由にしています。しかし、元西陣小のグラウンドを使って仮庁舎を設置することができません。6〜7千万円で大宮消防出張所の耐震

改修はできるのです。京都市では、職員定数の「適正化」と称して、この8年間3千人近い職員を減らしています。消防局の職員も例外ではなく、平成23(2011)年から5年間で、削減目標を大幅に上回る131人の職員減となりました。

地域住民への説明会を 請願署名運動が始まる

出張所担当6学区の住民有志の会による京都市への説明会開催を求める請願署名がとりくまれています。会代表の古武博司さん(桃園学区在住)は、「この地域は路地に接する木造住宅が多くあり、私自身も

町家に住んでいます。町の安全の大きな要である消防出張所が廃止されるのはすごく不安です。なぜ廃止しようと考えておられるのか説明いただきたいと思っています。説明会開催への請願署名へのご協力をお願いしたい」と話されています。



うとしている市政は間違っているのではないのでしょうか。

